

## 1. セミナーの概要

### 1-1 開催概要

ワーク・ライフ・バランス普及啓発を目的に、港区内中小企業経営者、人事担当者等を対象に、広くワーク・ライフ・バランスの周知を図る講演会と導入に繋げるセミナー・相談会を一体化した「講演会・セミナー」を開催しました。

今年度、「講演会・セミナー」は、平成28年11月と平成29年2月の2回開催予定であり、今回は、その第1回目の開催です。

- ◆開催日時：平成28年11月9日 18:30～20:30
- ◆開催場所：港区立港勤労福祉会館 第一洋室
- ◆主催者：港区産業振興課港勤労福祉会館
- ◆講師：エス・エー・エス株式会社 代表取締役 青山 秀一氏  
2011年 東京ワークライフバランス認定企業  
2012年 2015年 港区ワーク・ライフ・バランス認定企業
- ◆講演テーマ：第1回港区中小企業ワーク・ライフ・バランス経営セミナー  
離職率2%を実現するワーク・ライフ・バランス経営
  
- ◆参加者数：31名
- ◆アンケート回答数：16名

### 1-2 開催構成

#### 第一部 18:30～19:40

- ◆挨拶、施策説明 上嶋英治氏 (港区産業振興課港勤労福祉会館 館長)  
「ワーク・ライフ・バランス普及啓発に向けた取組みについて」
  - ◆基調講演 青山秀一氏 (エス・エー・エス株式会社 代表取締役)  
「離職率2%を実現するワーク・ライフ・バランス経営」
  - ◆質疑応答
- 休憩 10分

#### 第二部 19:40～20:30

- ◆ワーク・ライフ・バランス何でも相談会

## 2. セミナーの内容

### 2-1 内容概要

エス・エー・エス株式会社（以下、SAS社）代表取締役青山秀一氏による、『離職率2%を実現する「ワーク・ライフ・バランス経営」～笑顔で元気になるヒミツをご紹介します～』の講演を実施しました。

SAS社が、～すべては笑顔のために～をテーマに、社会に「笑顔」がうまれる仕組みを構築したものが、SAS式ワーク・ライフ・バランスです。



〔エス・エー・エス株式会社 代表取締役 青山秀一氏〕

### 2-2 内容詳細

エス・エー・エス株式会社の経営理念は、『常に質の高いサービスを提供し、会社のスキルアップを通じて、SAS全メンバーの生活水準の向上を図ると共に社会の笑顔に貢献していく ～すべては笑顔のために～』というものです。

その経営理念を実現するためには、SAS全メンバー（社員は当然ながらその家族やパートナー様、お客様）のすべてに“笑顔”がうまれる仕組みが不可欠と考えます。それがSAS式ワーク・ライフ・バランスとなります。



〔講演中の青山秀一氏〕

## SAS 社の目指す最高のワークとライフとは？

### 【ワーク】

IT の 4 つのスキル（技術・開発・業務・生産／管理）をみがいて、笑顔の生まれる質の高いサービスを提供し、自分たちのスキルを活かした企画・提案が可能な エンドユーザー直取引を拡充していく！

### 【ライフ】

SAS のすべての関係者（社員・家族・パートナー様・お客様）が、笑顔のたえない充実したすばらしい人生を過ごし（利己の実現）、そして、社会の一員として社会の笑顔に貢献してほしい！（利他の実現）

そのワークとライフの両方を半々に分け合うのではなく双方が高い次元でバランスをとって両立していくことですべての関係者間で笑顔が循環していくこととなります。当社は笑顔を循環するための独自の制度と組織をつくりメンバー全員で運営・実践しています。

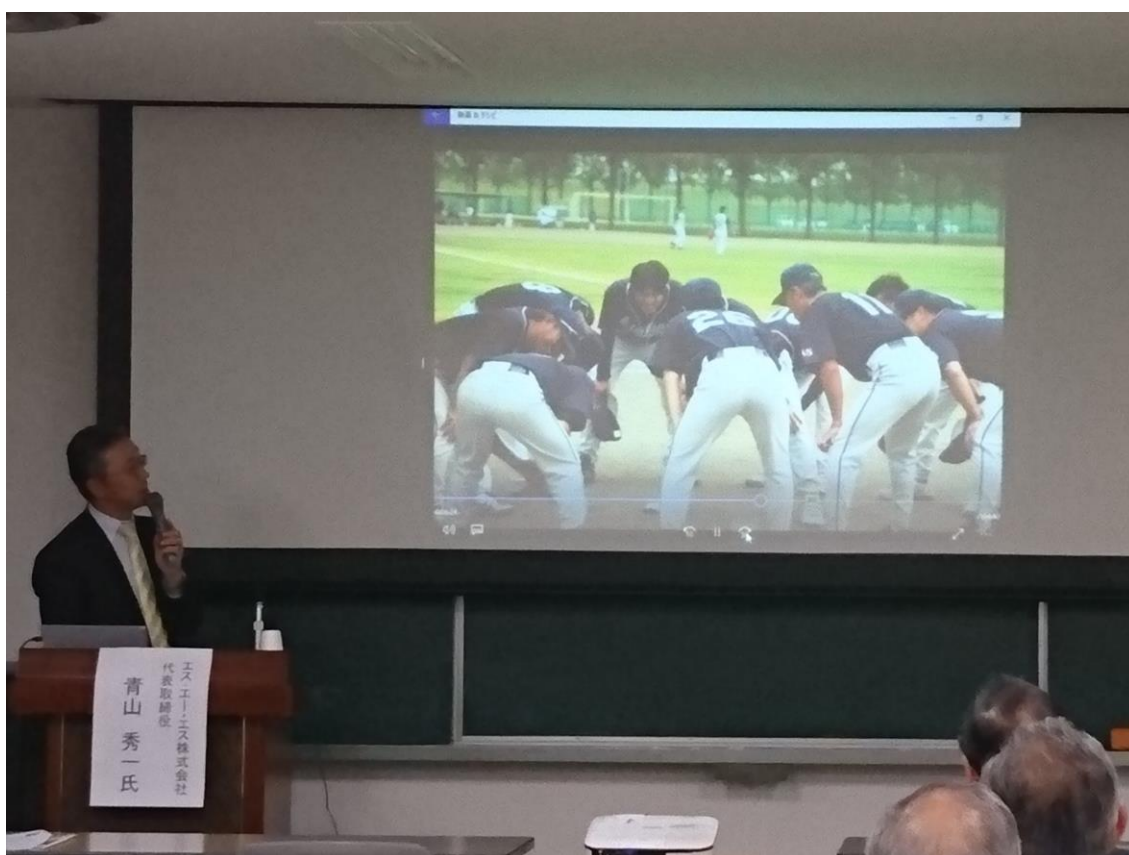
その SAS 式ワーク・ライフ・バランスを実践するための「ヒミツ」は、

(1) ヒミツその1【制度・仕組み】

- ① IT 業界一（オンリーワン）をめざす福利厚生制度
- ② IT 業界に特化した独自の人事制度
- ③ こだわり抜いた新卒採用
- ④ 価値感の合うキャリア人材採用のための人材紹介制度
- ⑤ はたらきやすい環境のためのテレワーク制度
- ⑥ メンバーの要望をまとめた「経営計画」で制度の拡充

(2) ヒミツその2【組織・運営体制】

- ① 社員会
- ② 新卒採用チーム
- ③ スキルアップ推進チーム
- ④ ワークライフバランス推進チーム
- ⑤ 変革ビジョン推進チーム
- ⑥ レクリエーションクラブ



〔レクリエーションクラブの紹介〕

<本日の振り返りと質疑応答>

お隣の方と名刺交換後、意見交換の時間が設けられた。

(質疑)

Q1：部活動はいつやるのか？

A1：業務時間中には絶対にやらない。土日か業務終了後である。社長は家族とともに参加することが多い。社員にお子さんが生まれるとお祝いを持参するとともに、名前を覚える。

Q2：どのような動機で、このような会社を作ろうと思ったのか？また、ここに至るまでの困難は？

A2：昔から自然にやっていたことで、特に意識したものではない。苦労話もない。一番楽しんでいるのは社長なのでは、とよく言われる。

Q3：生産管理、品質管理の現場では常にトラブルに見舞われるが、ワークライフバランスとの関係で、その時の処理の仕方は？

A3：私の持論だが、プロジェクトをしっかりと見れる者はIT業界の経営ができる。日常的に社員にマネジメントスキルの経験を積んでもらっている。

